

令和四年

松香 Komunikado

十二月十一日発行
第二百九十七号

大本松香分苑
豊橋市南牛川二・三・二〇
電話 ファックス
〇五三二・六三・二一七三
発行責任者 山本 健

令和四年十二月月度次祭 ごあいさつ

分苑長 山本 健

Saluton al ĉiuj!

皆様こんにちは。ただいまは、松香分苑の令和四年、年の納の月次祭を、すがすがしく斎行させていただきました。ご参拝・ご奉仕くださいました皆様方、又オンライン参拝並びにお玉串をお送りくださりました方々、誠に有難うございました。本日は五点お話しさせていただきます。

一、具志堅幸司様の御講演会での御礼について

お蔭様で、具志堅幸司様をお迎えしての、講演会を無事開催することが出来ました。その際に、皆様で

分苑神の家の大掃除をしていただき、畳・御神前板の間・カーテンなどもきれいになり、大変清らかな神の家になりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

二、斌子の病氣祈願について

皆様方には月次祭、朝拝時に病氣平癒御祈願をしていただいておりますが、少しずつ良くなってきました。本人からも「もう御祈願は大丈夫です。皆様に御礼を申し上げてください」と連絡ありましたので、平癒祈願は終了していただきますようお願い致します。長い間ご祈願有難うございました。心より御礼申し上げます。

三、十一月十九日二十日に開催されました主会長会議の要点について

＊開祖大祭の教主様ご挨拶で、「開祖様から始まるお土の心を大切に、これからも食・農・環境・エネルギーの問題に真摯に取り組みながら、土づくりを基とした農の良い型を、全国の皆さまと共に出させていただきたいと願っております。」と御座いましたが、これを受けて、みづほAIZEN発酵堆肥を使った各機関の活動報告が中心でした。松香では分苑としての活動ができておりませんでしたので、早速、店の前の駐車場にブロックで囲いをつくり一畳ほどの畑を作りしました。お土は小久保様のご子息様から大変安く分けて頂きました。小久保様は発酵堆肥を自社で作っておられます。これから勉強していかないとはいけません、今後の激動の時代は、教主様の仰られたことに素直に努めさせていくことが大切と思いますので、皆様方もプランター一つでもこのたい肥を使った、野菜作りを始められることをお薦め致します。みづほAIZEN発酵

堆肥を一袋購入しましたので、小分けしますので申し出てください。使い方は小林様にこの後説明していただきます。

＊B2＞創立百周年記念行事（令和五年九月十六日十七日十八日）について、紹介と賛助のお願いがありました。詳細は一月号に出てくると思いますのでここでは省略させていただきます。

四、激動の時代に大切なことについて

教主様は、開祖大祭のごあいさつで、「激動の令和のみろく五・六・七年が来年から始まります。」とお述べになられました。このような時代に大切なことは、歴代教主・教主補様のみ教えをもう一度振り返ってそれを基準に日々を過ごしていくことではないかと思えます。最近自分ができてなくて、大切だと思っている教えを一つ紹介させていただきます。日出鷹尊師様の「ぼたえもん童話集」のなかにあります「八兵衛と六助」という題のお話です。八兵衛は若い時からどん

なことにたいしても、「これはありがたい」「ああ、うれしい」というくせがあり、六助さんは、その反対に、ちよつとしたことにも、「ああ、いやだ」「人をばかにしている」という口ぐせがありました。八兵衛が病気になったある日、コレハアリガタイ、アア、ウレシイという名の姫が現れて病気を治してくれたというお話です。

三代様も、日々感謝感謝と仰っておられます。ある特派宣伝使が出向前の三代様へのごあいさつの際に、「地方の皆様にも、なんとお話したらよいか」を尋ねたところ、三代様は「神様はありがたい！とそれだけ言えばよい」とお答えになられたそうで、その後も出向前のあいさつで、「神様はありがたい、は何度も言いました」と、お話したところ三代様は、「何度でも、神さまはありがたい！と言えばいい」と仰ったそうです。先日ある方から、「寝る前に今日の出来事でありがたかったことを三つ思いだして、日記に書くなり、思いだして感謝して寝ると気持ちよく眠れる」という話があったと聞きました。これから激動の時代

は嫌なことも多く出てくると思いますが、そちらには目を向けず、良かったこと、うれしかったこと、ありがたかったことにできるだけ目を向けて、松香信徒助け合って乗り切っていきたいと思います。

五、徳を積む

最後に、激動の時代に向けて、霊界の存在を信ずる私たちは、生きていく間に少しでも多くの徳を積むことに必死にならなければなりません。教主様の開祖大祭ご挨拶の中に「99.9パーセント悪いことが続くように思っている、祈りつつ、粘り強く、あきらめないで努力していると、何かを機にある時一瞬で手のひらを返したように状況が好転する経験をお持ちではないでしょうか。」と仰られております。毎日の朝夕拝で「自分と大神様を通じて、正しい判断ができますように」とお願いして、どんなに大変なことが起こっても、もう駄目だとは思わずに、大神様教主様のご教導に従って、ご守護いただきましょう。